

|   |        |   |
|---|--------|---|
| 1 | 日時     | 2014年4月17日  |
| 2 | 地域     | 中国重慶市（重慶大学）   |
| 3 | 担当者    | 周璞  |
| 4 | 参加者    | 重慶大学教員6名  |
| 5 | テーマ    | 総合日本語の授業におけるピアラーニングの実践  |
| 6 | 内容の概要  | <ol style="list-style-type: none"><li>1. ピアラーニングの定義の説明</li><li>2. 総合日本語の授業デザインの紹介</li><li>3. ピアラーニングを導入したプレゼンテーション訓練の紹介（協働実践研究会北京支部会議のポスター発表をもとに）</li></ol>   |
| 7 | 担当者の内省 | <p>参加者の中では授業でときどきグループ活動を導入する教師がいるが、ほとんどはピアラーニングを聞いたのははじめてであった。担当者の授業実践の紹介を聞いて、自分の教授経験を振り返り、活発な議論を行った。次の意見が出た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. ディスカッション、意見の発表などのアウトプットに重きを置く今の総合日本語の授業ではピアラーニングが学習者の緊張を緩和し自信をつけるのにいい効果があるかもしれない。</li><li>2. プレゼンテーションのピアフィードバックは発表者だけでなく、聞き手としての学習者に対しても重要な役割がある。</li><li>3. 文型、文法の学習は教師の説明がなく、ピアラーニングだけでは学習効果に対して不安だ。</li><li>4. 学生の消極性が出る場合、ピアラーニングをいかに進めるのが問題だ。</li></ol> <p>自分の授業でも実践してみるとピアラーニングに興味を示してくれた教員もいたが、これから共同研究をして、授業デザインの問題点を改善していければと思う。</p> |